



School Library

葦山中学校図書館通信 NO.5 2019. 10. 16発行 文責 岩崎

「読書の秋」です。

秋が深まるにつれ、日が短く夜が長くなっていきます。古代中国では長い秋の夜を有意義に過ごそうと、「灯火親しむべし」（涼しく夜の長い秋は灯火の下での読書に適している）という言葉が広がりました。これは、中国、唐代中期の文学者・思想家の韓愈が著わした『符読書城南詩』（ふ しよをじょうなんによむ）がベースになっています。『符読書城南詩』は学問をすることの大切さを詠んだ詩で、その中に、「灯火稍（ようや）く親しむべく／簡編卷舒（けんじょ）すべし」という節があります。意味は、その節の前の流れから、「涼しい秋になり、ようやく灯火の下で読書を勤しむ」といったところです。ちなみに原詩と書き下し文は以下のとおりです。

時秋積雨霽
新涼入郊墟
燈火稍可親
簡編可卷舒

時秋にして積雨（せきう）霽（は）れ、
新涼（しんりょう）郊墟（こうきょ）に入（い）る。
燈火（とうか）稍（ようや）く親しむ可（べ）く、
簡編（かんぺん）卷舒（けんじょ）す可（べ）し。



この詩は詩人の韓愈が、当時 18 歳だった息子に、読書の大切さを教えるために詠んだものとされています。この漢詩をモチーフにした「灯火親しむべし」という言葉がやがて日本に伝わって、日本では、秋が読書にふさわしい季節であるというイメージになったといわれています。そのイメージから生まれたのが、『秋の読書週間』です。

1947（昭和22）年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。

令和はじめての『秋の読書週間』は10月27日から11月9日までです。時代が変わっても「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」という目的は変わりません。秋の夜長にぜひ本を読んでください。

9月1日から10月7日までに受け入れた本を裏面で紹介します。みなさんのお気に入りの1冊があるといいのですが。

